

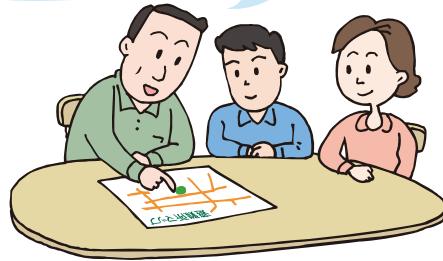
市民行動要領（日ごろからの対策編）

1 家族防災会議

家族で話し合う必要があるものについて、大きく次のようにまとめました。話し合う上で重要なのは、災害に対しての想像（イマジネーション）です。

いろいろな場面を想像して家族内の対策を立ててみてください。

家族全員で防災訓練に参加しよう!!



check 1 地震に関する基礎知識

- 名古屋市が公表した「南海トラフ巨大地震」の被害想定
- 津波の浸水開始時間と浸水想定区域
- 地震が起きた場合の行動要領
- 緊急地震速報が発表された場合の行動要領

check 2 家及びその周辺の危険箇所のチェック

- 家の耐震状況を確認
- 家具等の配置や転倒・落下防止
- ガラスの飛散防止
- ブロック塀の転倒防止
- お住まいの地域の災害危険の把握
- 感震ブレーカーの設置

check 3 地震に備える場所の確認

- 指定緊急避難場所、指定避難所の確認
 - ・地震が起った場合に備えて指定緊急避難場所、指定避難所の確認もあわせて行う
 - ・津波からの指定緊急避難場所（津波避難ビル）も確認
 - ・避難場所の確認とともに避難するルートも確認
- 避難の方法を確認
- 家族が離ればなれになった場合の落ち合う場所の確認

check 4 家族間の連絡方法

- 家族が離ればなれになった場合の連絡方法を決める
- 災害用伝言サービスの利用方法
 - ・災害用伝言板
 - ・災害用伝言ダイヤル（171）
 - ・災害用伝言板（web 171）

check 5 備蓄と非常持出品

- 家族構成を考えて必要な品を準備
- 保存状態や消費期限・賞味期限などの確認

check 6 日ごろの対応

- 家族一人ひとりの役割分担
- 日ごろの防災対策上の対応
- 地域で行われる防災訓練へ家族全員で参加

基本的な項目は以上のようにになりますが、家族構成により乳幼児や高齢者がいる場合の対応や、子供がいる場合は学校などへ迎えに行く方法等を決めておく必要があります。必要以上に地震を恐れることなく、いざというときに備えた対策を講じておくことが大切です。

また、地域で行われる防災訓練に家族全員で参加しましょう。

2 取り組もう!今すぐ耐震対策

阪神・淡路大震災では、亡くなられた方の約8割が建物の倒壊などによる圧死でした。名古屋市では、大切な命を守るため、住宅などの耐震化を支援する各種事業を行っています。

★木造住宅の無料耐震診断

対象 名古屋市内の昭和56年5月31日以前に着工した木造住宅
(プレハブ、ツーバイフォー工法などは除く)

申込者 対象住宅の所有者



★木造住宅の耐震改修助成

対象 名古屋市の無料耐震診断で、評点が1.0未満と判定された木造住宅
助成額 耐震改修工事費用の5分の4（最大100万円まで）
※市民税非課税世帯は工事費用の5分の4（最大150万円まで）



★耐震シェルター等の設置助成

対象 名古屋市の無料耐震診断で、評点が0.7未満と判定された木造住宅で
●申請時点で65歳以上の方
●障害がある方 などが居住している世帯
助成額 設置費用の2分の1（最大30万円まで）
※市民税非課税世帯は設置費用の4分の3（最大45万円まで）



★ブロック塀等の撤去助成

対象 道路に面する高さ1m以上のブロック塀など
助成額 撤去費用の2分の1[4分の3]と、塀の長さ6,000[9,000]円/mで算出した額のいすれか低い額（最大10[15]万円まで）
※〔 〕内は木造住宅密集地域4地区（米野、御劍、下之一色、笠寺）



★耐震相談員の派遣（無料）

対象 名古屋市内に建築物を所有または賃借している方
内容 住宅を始めとする建築物の耐震対策について、建築の専門家である耐震相談員が無料で現地にアドバイスに伺います。
相談時間 1～2時間程度



そのほかにも、以下のような助成制度があります。

- ★マンションなど非木造住宅の耐震診断・改修設計・改修工事助成
- ★事務所、店舗など多数の者が利用する建築物の耐震診断助成
- ★地域ぐるみ耐震化促進支援事業

いずれも着手前に申請が必要です。

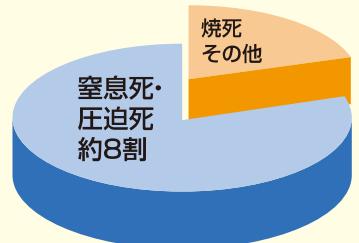
※平成31年2月時点の内容です。

お問い合わせ先 住宅都市局耐震化支援室 TEL972-2787 FAX972-4179

③ 家具の転倒防止対策等

阪神・淡路大震災では

死者の約8割が
家屋の倒壊や家具の転倒により
圧迫死・窒息死でした。

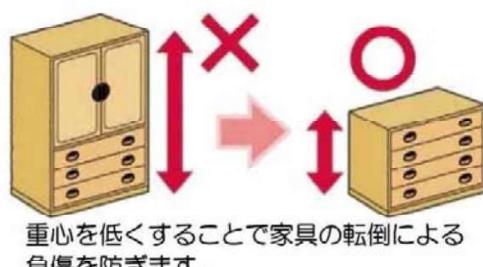
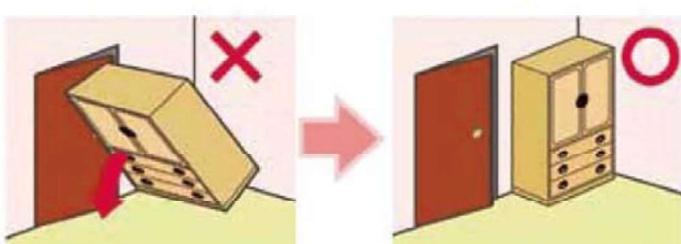
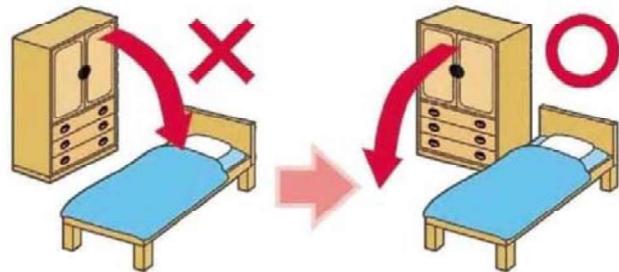


命を守るために！

家具等の転倒防止対策を
あらかじめ行っておきましょう

レイアウトと家具の工夫

レイアウトや家具を見直してより安全に！



- ・寝室、リビング、その他の部屋の順で優先的に対策を行いましょう。
- ・家具等の移動や転倒、あるいは収納物の散乱などによって避難路が妨げられることがあるので、部屋の出入口付近の家具等の高さやレイアウトの見直しを行いましょう。

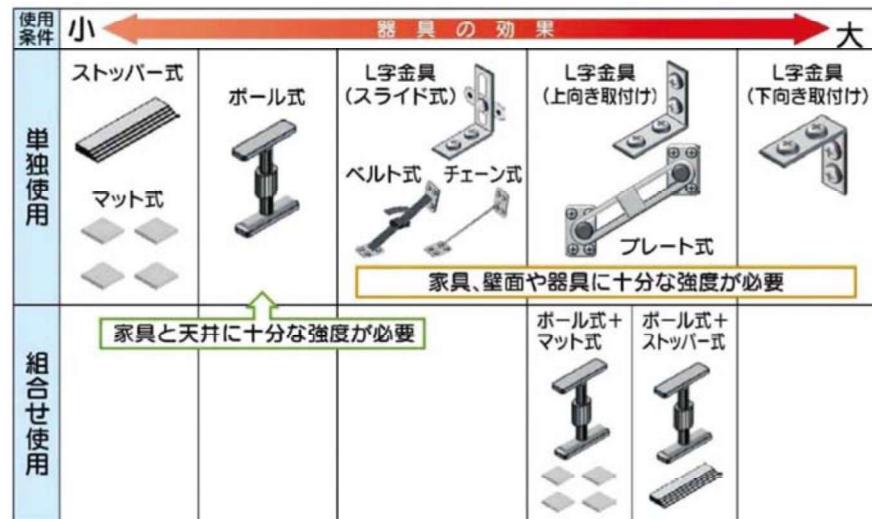
家具固定

レイアウトや家具の見直しができない場合は、家具等の固定を行いましょう。

- ・家具をL型金具などの壁に直接ネジで固定する方法が最も効果が高いです。
- ・ストッパー式、マット式は単独使用では効果は小さいですが、ポール式と組み合わせることにより効果は大きくなります。
- ・ポール式の場合は、天井に下からの突き上げに耐える強度が必要で、強度がない場合は、当て板等で補強する必要があります。

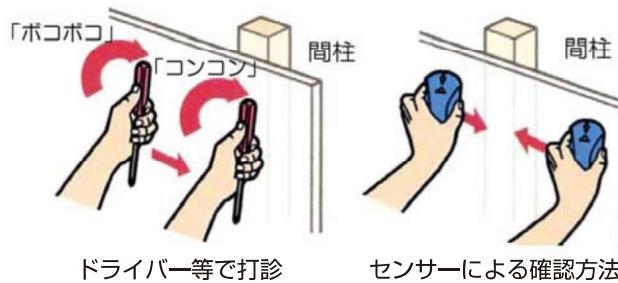
地震動に対する対策器具の効果

転倒防止器具は、震度6強の揺れを再現した実験で、その効果を測定しました。



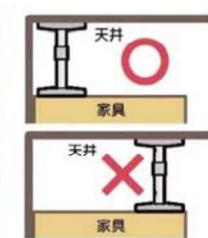
東京消防庁ホームページ「平成27年度版家具類の転倒・落下・移動防止対策ハンドブック」より転載

間柱探しの例

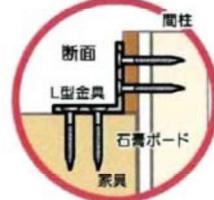
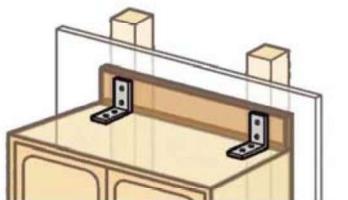


ドライバー等で打診

センサーによる確認方法



前方(部屋寄り)に固定すると、家具は転倒する可能性がある。



有効な家具固定の方法

※家具の上などに物が置いてあると家具の転倒と同様にケガや避難の障害になります。家具の上などに物を置かないようにしましょう。

自力で家具固定を行うことが困難な世帯を対象に、家具転倒防止ボランティアを派遣し、家具転倒防止等の支援を行っています。

ご自分で家具固定ができない場合は

《家具転倒防止ボランティアの派遣事業》

名古屋市では、自力で家具の転倒防止対策を行うことが困難な世帯を対象に、家具転倒防止ボランティア派遣事業を行っています。

- 施工費用は無料です。
(※金具などの家具転倒防止器具の代金は、実費でご負担いただきます。)
- ご自宅までボランティアが事前調査・家具転倒防止作業に伺います。
- ボランティアによる家具の転倒防止対策は、原則3点までです。
- ご自宅や家具の形態により、転倒防止対策が困難な場合もあります。
- 集合住宅では、管理者の許可が必要となります。

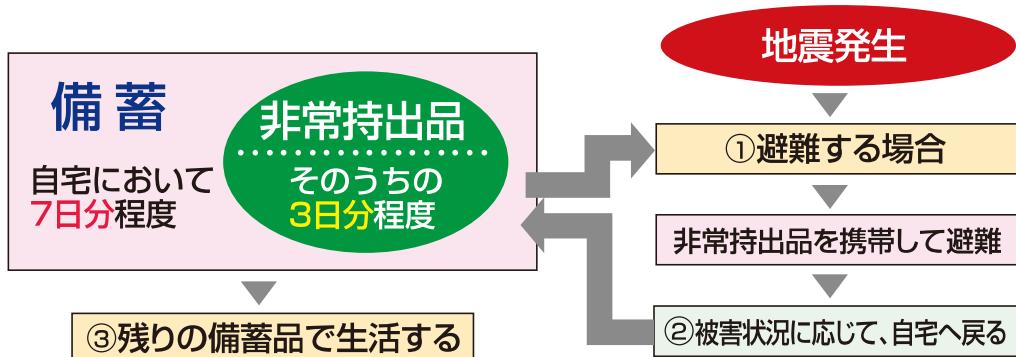
詳しくは、お住まいの区の消防署または区役所にお問い合わせください。

4 備蓄と非常持出品の用意

地震を想定した場合、日頃からの備えとしてどれくらいの備蓄品を用意し、避難する場合はどれくらいを持ち出せばよいのでしょうか。

地震が発生したときには、電気やガス、水道、通信などのライフラインが止まってしまう可能性があります。また、過去に発生した地震の時には、食糧などの流通の回復に時間がかかりました。ライフラインなどが止まっても自力で生活できるよう、普段から飲料水や非常食などを備蓄しておくことが大事です。日頃からの備蓄としてはおおむね7日分程度を備蓄しましょう。

また、自宅が被災したときは、安全な場所に避難し、そこで避難生活を送ることになります。避難所生活に必要なものをリュックサックなどに詰めておき、いつでもすぐに持ち出せるように備えておきましょう。避難する場合は、3日分程度を非常持出品として持参してください。



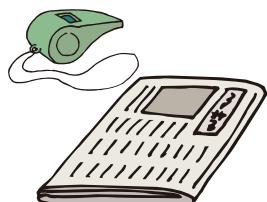
- 日常の生活を続ける中で備蓄していく
- 年に数回は備蓄品の賞味（品質保持期限）期限などを確認する

備蓄の量は？

おおむね7日分程度を備えておくと良いでしょう。避難する場合は、そのうちの3日分程度を非常用として持参してください。

阪神大震災で役に立ったもの！

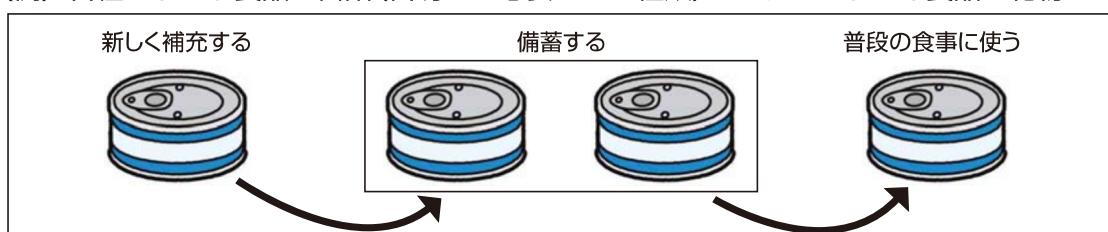
新聞紙（保温性があり、毛布のかわりになる）、ラップ（食器にラップを敷くと洗わなくてすむ）、ゴム手袋（冷水から手を守る）、ゴミ袋（カッパや防寒具になる）、ガムテープ、紙コップ、紙皿、笛・ホイッスル（倒壊家屋に閉じ込められた時に自分の場所を知らせるため）など



食品を欠かさないためのヒント

食品は日ごろから少し多めに蓄え、毎日の食事に取り入れながら、いざという時のために備えると、賞味期限切れを防ぐことが出来ます。（ローリングストック法）

（例）各種レトルト食品、缶詰（缶切りが必要のない種類）、フリーズドライ食品、乾物



また、災害が発生したからといって非常食を食べないといけないわけではなく、冷凍庫や冷蔵庫の中身から食べていき、その後、消費期限が長い乾麺や缶詰などの非常食を食べることで、長く持たせることもできます。

非常持出品の例

[ポイント1]

荷物は最小限にまとめ、リュックサックなど両手が使える背負い式の物を準備しましょう。

食料品関係

飲料水（一人1日3㍑が目安）

乾パンやクラッカー

レトルト食品・缶詰

（はし・スプーン・缶切り・ナイフも忘れずに）

調味料・粉ミルク・ほ乳びん

キッチン用ラップ

（汚れた皿にかぶせて使える）

紙コップ・紙皿



貴重品

現金（小銭も必要）

※預金通帳や有価証券の写し

※健康保険証や免許証の写し

認印・印鑑

カード類

※日頃は、写しを入れておき、避難するとき余裕があれば実物を持ち出しましょう。



衣類関係

下着（家族分）

衣類（長袖のもの）

雨具・タオル・毛布

寝袋



[ポイント2]

- 1 地震の発生により割れたガラスが散乱することもあるので、枕元に底の厚いスリッパ・運動靴など準備しておきましょう。
- 2 常備薬や眼鏡の予備、入れ歯なども忘れずに準備しましょう。
- 3 屋外における避難生活に必要となる物品、テントなども準備しましょう。
- 4 乳幼児がいる家庭では、粉ミルクや哺乳瓶、アレルギー対応食品などを準備しましょう。



便利品

- ・使い捨てカイロ
- ・ガムテープ
- ・筆記用具
- ・裁縫セット
- ・新聞紙
- ・ゴミ袋
- ・ハンガー
- ・トイレットペーパー
- ・ゴム手袋